連舞塞溪

P2 ---------------- 旭川赤十字病院 100 年の歩み

P5 新診療部長挨拶

P6 ----- 医療技術部紹介 放射線科

P7 -----新任医師のご紹介

P8 ------ 病院からのお知らせ

P8 ------地域医療連携室からのお知らせ

■理 念

赤十字の基本理念に基づき、個人の尊厳および権利を尊重

し、質の高い医療を提供します

■基本方針

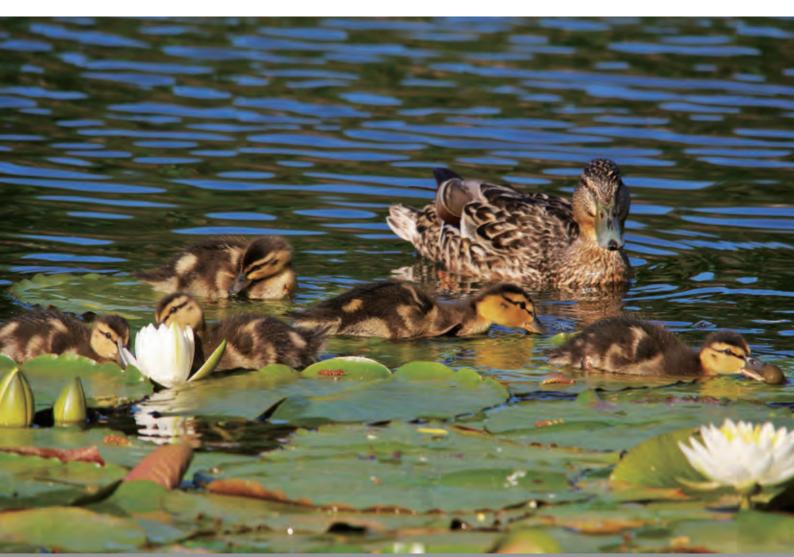
- 1. 患者さまの人権と意思を尊重した病院環境をつくります
- 2. 急性期医療を中心にして診療を進めます
- 3. 救急医療の充実に努めます
- 4. 地域の医療機関等との連携を推進します
- 5. 国内外の災害時の医療救護活動に貢献します
- 6. 職員の教育、研修を充実させます
- 7. 健全経営に留意して、その結果を社会に還元します

■私たちは患者さまの権利を尊重します

- 1. 適切な医療を受ける権利
- 2. 医療に関して知る権利
- 3. 医療行為を自分で選ぶ権利
- 4. プライバシーを保証される権利
- 5. 人権を尊重される権利
- 6. セカンドオピニオンを受ける権利

おかげさまで 創立 100 周年







今年、旭川赤十字病院は創立100周年を迎えました。病院の歩みを振り返ってみますと、その誕生は地域の人々の熱い期待と支援によるものですし、病院の成長の過程はその時代時代を反映しているものでした。今、旭川赤十字病院は救急医療を主体とした急性期病院として地域の医療機関を支援するとともに、地域の医療機関に支えられていますが、ここに至る過程を紹介させて頂きます。

当初は旭川ではなく 札幌で誕生した

旭川赤十字病院が誕生したのは1915年(大正4年)です。日本赤十字社北海道支部仮病院として、当初は旭川ではなく札幌で誕生しました。赤十字病院第1号は東京広尾にあります赤十字医療センター(1886年設立)ですが、1904年以降全国で赤十字病院が次々に設立されました。北海道にも赤十字病院を作りたいとのことで、まず、私立逸見病院跡を利用して仮病院としてスタートしました。(写真1)場所は時計台に近い北2条西2



写真1 北海道支部仮病院(大正4年札幌)

丁目でした。その後、本病院の建築計画を作成し始めましたが、札幌には現在の市立病院をはじめとしていくつかの病院がすでに存在していることに加え、北海道大学医学部附属病院が設置されることになりました。そこで、赤十字病院の建築は札幌以外で行うことになり、小樽と旭川から強は誘致要望が出されましたが、より積極的でより良い条件を提示した旭川に決まりました。その良い条件とは、敷地6,000坪を寄付4,000坪は安い価格で貸し付け、建築費として50,000円を寄付するというものでした。この土地の広さは現在の旭川赤十字病院の敷地とほぼ同じです。

写真2 開設時の北海道支部病院(大正12年旭川)

強い誘致要望に応え 旭川に移転

1923年(大正12年)旭川に移転し、日本赤十字社北海道支部病院として12月1日に診療開始しました。写真2は1923年11月に旭川で完成した病院です。旭川初の鉄筋コンクリート工法による建物でした。旭川市民待望の大型病院の誕生を祝い、旭川市長が全市民に呼びかけて院長以下職員全員をニュー北海ホテルに招き歓迎会を開いたとの記録が残されています。如何に、地域に期待されていたか、ということを知ることのできるエピソードです。



写真3 救命救急センター開設時の旭川赤十字病院 (昭和53年)

<u>最大760床。</u> 救急機能の充実に邁進してきた

旭川市に赤十字病院が誕生したころ、旭川は市制施行直後であり人口は約6万人でした。その後、旭川市の人口は急激に増加し2000年頃には36万人都市となりました。旭川市の人口の増加に合わせて旭川赤十字病院のベッド数も増加しました。最大760床にまでなりました。この成長の過程で、旭川赤十字病院は救急機能を充実させてきました。1978年には救命救急センターを設置し救急医療を柱に据えました。(写真3、4)



写真4 開設当時の救命救急センター内部及びドクタ ーカー

急性期医療に特化するとともに 地域連携を重視へ

一方、2000年からは地域連携にも力をいれるべく、道内でもまだほとんどなかった地域医療連携室を設置しました。目的は、急性期医療に特化した医療機関に変わっていくことでした。まず、リハビリテーションを継続する必要のある患者さんを地域のリハビリテーションを主体とした病院に紹介することに力を入れました。さらに近年は急性期医療終了後にさらに療養が必要な患者さん



写真5 現在の救命救急センター

を積極的に市内の病院に紹介するようにして、急性期医療機関として機能を保つようにしています。 同時に、外来を紹介中心の外来として地域の医療機関との連携を重視する医療を展開しています。

今後の展望について

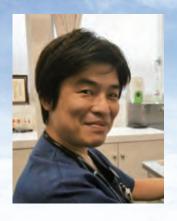
現在、旭川赤十字病院のベッド数は一般514床とかなりのダウンサイジングを行いましたが、平均在院日数は12日程度に短縮していることで以前よりも多くの新規の入院患者さんの受け入れが可能となり、手術件数も7,000件を超えるようになってきています。

今、地域医療ビジョンとして旭川地区の病床再編が行われようとしています。病床機能別に病院・病棟が再編されるわけですが今後も旭川赤十字病院は高度急性期並びに一般急性期の医療機関としての機能を維持していくつもりです。今後とも旭川赤十字病院を宜しくお願い致します。



写真6 現在の旭川赤十字病院

新診療部長段锣



腎臓内科 小林 広 学

●出身大学 札幌医科大学 (平成 11 年卒)

●資格・認定・指導医等 医学博士

日本内科学会認定医

日本循環器学会専門医

日本医師会認定産業医

日本透析医学会専門医

日本腎臓学会腎臓専門医

旭川医科大学臨床指導准教授

この度、平成27年4月1日付で腎臓内科部長を拝命いたしました。

私は1999年に札幌医大第2内科に入局しました。当時は心不全や心筋梗塞、重症不整脈などで生死を彷徨う急性期の循環器疾患患者を助けることにやりがいを感じておりました。2000年には1年間当院に研修医として赴任し、半年腎臓内科、残り半年循環器内科といずれも同門である先輩の先生に教えていただきました。現在の私の診療の基礎を叩き込んでいただいたのは当時腎臓内科部長であった山地先生と、現在も循環器内科の部長としてご活躍中の西宮先生で、当院で研修をできたことは貴重な経験でした。

循環器内科医ではなく腎臓内科医としての道を選ぶ

循環器内科医になりたくて医者になったはずでしたが、縁がありまして、当初全く興味もなかった腎臓内科の世界で仕事をしています。でも実際に腎臓内科に携わるようになり、興味がなかったのは腎臓内科の本質を知らなかっただけと気づくことができました。北海道は腎臓内科医が少なく、腎不全・透析医療は泌尿器科や循環器内科で補われている施設が多い状況です。しかしながら腎臓内科で扱う疾患はとても広く、腎炎の診断や治療、ネフローゼ症候群や自己免疫疾患からの腎障害に対するステロイドや免疫抑制治療、保存期腎不全に対する全身管理、末期腎不全に対する腎代替療法選択への支援と準備導入、維持透析患者管理に至るまで、いわゆる「片手間」での対応では十分な治療ができないのも現実です。

より質の高いチーム医療体制の確立を目指す

そんな中、これまで山地部長や和田部長が築かれた腎臓内科単科としての医療レベルを守りながら、高齢化・地域医療過疎などといった今後の医療情勢の変化に柔軟に対応できる、より質の高いチーム医療の体制を確立していく所存です。医師不足の折、当科医師数も3人と極限状態ではありますが、将来の腎臓内科を担う若手の育成も頑張りたいと思います。また、当科外来もパンク寸前ですので、できる限り連携施設の先生と協力しながら、平素の外来管理はお願いしながら必要に応じて当科紹介いただけるようお願いするなど、より良い連携システムを構築していけるように、連携施設の先生のご意見も伺いながら道北地区腎不全医療が更に充実発展していけるように努力してまいる所存です。

まだまだ経験不足ではありますが、今後とも皆様のご指導のほどよろしくお願いいたします。



私たち診療放射線技師は、普段X線写真の撮影を始めとしたCT、MRI、RI等の多様な画像検査を日々業務としています。そこで今回は、放射線科の業務を一部ではありますがご紹介したいと思います。

RISの活用によるスムーズな業務

現在の放射線科業務は放射線科情報システム (以下RIS)によって大きく支えられています。 このシステムは電子カルテから依頼された検査 オーダーの情報を受け取り、検査当日の依頼一 覧を表示し、検査機器とのデータのやり取りを することによって電子カルテへ検査結果を返し ています。RISのおかげで我々診療放射線技師 は患者様や検査内容の詳細な情報の取得、効率 的な検査順序の組み立て、検査終了後の結果の 確認といった業務をスムーズにこなすことがで きています。

救急業務では脳卒中の一連の検査を 30分程度で行うことが可能

救急業務においては救急外来に隣接するようにX線撮影室とCT検査室があり、救急患者の検査依頼オーダーが発生した場合、即座に検査に対応することが可能です。具体的に脳卒中の患者様を例に挙げますと救急外来からの検査依頼の電話が来てから即座に胸部X線写真と頭部CTの撮影を行います。この時点で10分程度の

時間で2つの検査を実施することができます。 その結果出血などがなく、脳梗塞を疑う場合は ただちにMRI検査へと移り、約15分の検査時間を経て、救急外来へと戻る流れとなります。 このように依頼発生から終了までトータル30 分程度で脳卒中の一連の検査を行うことが可能 です。

最新検査機器をそなえ、質の高い検 査を提供

通常業務におきましてはCT検査を例に挙げますと1日あたり頭部単純CT検査の予約枠が59、それ以外の予約枠が56あり、全体で115の検査予約に対応しています。また、当日の検査依頼に関しましても、救急外来と予約検査を優先的に行っておりますので検査依頼されてから、多少の時間はかかりますが、時間の許す限り制限なく対応しております。

また当放射線科では26人の診療放射線技師と、3TテスラMRIや320列CTなどの最新検査機器を備えており、質の高い検査を提供できるよう心がけています。

今後も急性期医療や地域医療に貢献できるよう一層の努力をしていきたいと考えています。 連携施設の皆様方、今後ともよろしくお願いします。

(文責 医療技術部 放射線科

CT、X線TV課長 阿部 直之)

新任医師のご紹介



- ①診療科
- ②取得指導医•専門医等
- ③卒業年度
- ④地域医療機関の先生方へ一言!





シマムラ島村

- ①皮膚科
- ③1999年度
- ④7月より旭川医大より参りました。地域 の皆さんの皮膚トラブルの解決に微力な がら頑張って参りますので、どうぞよろ しくお願いいたします。
 - ①麻酔科
 - ②麻酔科認定医・ 麻酔科標榜医
 - ③2010年度
 - ④7月まで市立旭川病院に勤務していまし た。ご迷惑をおかけすることが多々ある かと思いますがよろしくお願いします。



イケシマ **池島** ユウタ **雄太**



ナガハタ **永幡**

- ① 臨床研修医
- ③2013年度
- ④江別市出身。旭川医大卒です。 たすきが けで参りました。微力ながらお役に立て るよう頑張ります。一年間よろしくお願 い致します。

退職医師のお知らせ

氏名	診療科	
岩﨑 剛志	皮膚科	平成27年6月30日付
池島まりこ	麻酔科	平成27年7月31日付



病院からのお知らせ

診療情報提供書(紹介状)が必要な診療科が13科に拡大します

平成27年10月1日より、以下の診療科受診の初診患者様は、原則として"診療情報提供書(紹介状)"をご持参いただいた方のみとなります。

診療情報提供書(紹介状)をお持ちでない患者様につきましては、他の医療機関を受診いただくようご案内させていただきます。

なお、かかりつけ医様、かかりつけ歯科医様へ診療情報提供書(紹介状)作成をお電話にて依頼させていただく場合がありますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。

診療情報提供書(紹介状)が必要な診療科 10月1日より開始の診療科(1科)

泌尿器科

すでに実施している診療科(12科)

糖尿病·内分泌内科/呼吸器内科 血液·腫瘍内科/消化器内科 循環器内科/腎臓内科/神経内科 耳鼻咽喉科/整形外科/心臓血管外科 眼科/歯科口腔外科

地域医療連携室からのおしらせ

講演会・研修会のご案内

- ・旭川赤十字病院症例検討会
 - (日 時) 平成27年10月27日(火曜日) 19時00分~20時30分
 - (会場) 当院講堂(外来棟2階)
 - (油 題)
 - 1. 「弓部大動脈置換術を行った急性大動脈解離の一例」 四条はらだ医院 院長 原田 一暁 先生 当院 心臓血管外科部長 上山 圭史
 - 2. 「去勢抵抗性前立腺癌の一例」神居やわらぎ泌尿器科 院長 清水 俊明 先生 当院 泌尿器科部長 堀田 裕
- 地域医療支援病院医療機関職員研修会
 - (日 時) 平成27年11月14日(土曜日) 14時00~16時00分
 - (会場) 当院講堂(外来棟2階)
 - ※詳細は改めてご案内いたします
- ・市民公開講座 ~耳寄りな医療のお話~
 - (日 時) 平成27年11月28日(土曜日) 14時00分~16時00分
 - (会場) 当院講堂(外来棟2階)
 - (テーマ) がんのお話〜肺がん・肝がんについて〜 ※詳細は改めてご案内いたします。

発行/旭川赤十字病院 地域医療連携室 〒 070-8530

旭川市曙1条1丁目1番1号

TEL:0166-22-8111 (代表) FAX:0166-22-8287 (直通)

E-mail:renkei@asahikawa.jrc.or.jp